

62 消費者との交流による地産地消の推進

【き】 消費者との交流機会を増やすために

平成14年度、豊岡農業改良普及センターと協働で、複数の直売所が協働し、消費者との交流機会を増やす取り組みを始めました。それにより直売所同士の連携の機運が高まり、平成16年度の直売所連絡協議会の立ち上げにつながりました。

【概】 協働による地産地消の推進

平成14～15年度は、「とれた場所と作った人のわかる農産物を食べよう!」をキャッチフレーズに、地産地消の推進に努めました。

具体的には、11直売所の協働による「巡って楽しい直売所スタンプラリー」の実施、20直売所を掲載した直売所マップの発行、4直売所の協働による「但馬まるごと感動市」への共同出店などに取り組みました。

これらの取り組みを踏まえ、平成16年度に、「消費者と生産者、お互いの顔が見える直売所をめざし、新鮮で安全な農産物を消費者に提供する」という目的のもと、北但馬地域に36ある直売所のうち、22の直売所からなる北但馬農産物直売所連絡協議会を設立しました。

【成】 直売所は成長し続けています

平成10年には20カ所程度しかなかった直売所が、平成16年には36カ所に増えました。売上も順調に伸びており、平成15年度の直売所全体での販売額は、1億円を超えました。

また、新しく増えてきた直売所には、長年「男は仕事、女は家庭」で過ごしてきたご夫婦が、夫の定年退職後、共同で経営を始めたというところが多く見られます。直売所の経営や、それに伴う消費者との交流が、新しい生きがいになっています。

【夢】 消費者との交流をさらに深めていきたい

これからもスタンプラリーの開催などを通じて、消費者の皆さん、特に都会の人たちとの交流を深めていきたいと思っています。また、その交流の中で、地域の伝統食やアイデア料理などをともに研究・PRし、地産地消をさらに推進していきたいと考えています。



但馬まるごと感動市

北但馬農産物直売所連絡協議会

代表者氏名 : 達富鶴己
活動地域 : 豊岡市・旧香住町
事務所等 : 豊岡市幸町7-11
豊岡農業改良普及センター内
電話番号 : 0796-26-3706
FAX番号 : 0796-24-8163

ともに取り
組んだ団体等

豊岡農業改良普及センター

農業関係の法律について調べてくれたり、栽培技術の指導、行政とのパイプ役など、ソフト面でさまざまな支援をしていただいています。

JAたじま豊岡総合営農生活センター

協議会の会計はじめ、運営面での支援をして頂いています。

活用した支援

組織育成、起業化のための農産物栽培・加工利用技術指導による支援など（兵庫県農業改良普及センター）



競争相手じゃないということを粘り強く説得

私は平成11年から直売所で朝市を開いているのですが、直売所の数は年々増えてきました。当初はそれを「競争の激化」というマイナスイメージでとらえる方が多かったのですが、私はそうではないと思いました。ともに取り組む仲間が増えてきたのだと考えました。

豊岡農業改良普及センターとともに、「直売所同士は競争相手ではなく、手をつなぐことでみんなが元気になれるから」と説得して回り、平成14～15年度の協働、そして平成16年度の連絡協議会の立ち上げにつないでいきました。

まだ連絡協議会に入っていない直売所にも、いつでも参画してくださいと声をかけています。



何よりもふれあいが重要です

農産物直売所の中には、ブースに商品が置いてあって、購入者はお金を所定の場所に入れて、持ち帰るというタイプの無人のものも多くあります。

しかし、私たちは生産者と消費者とのふれあいを大事にしています。直売所に農産物を買いに来る人は、近くにお住まいの方から、京都や大阪など、遠方から来られる方までいます。商品はもちろん、直売所の生産者と話をすることを楽しみにしているようです。

会話と交流が、直売所の人たちにとっても買いに来るお客さんにとっても大きな喜びとなっています。

求ム!

スタンプラリーは毎年、10月から12月頃にかけて、開催しています。平成17年度も開催する予定ですので、ぜひご参加ください。8月頃には詳細を発表できる予定です。



消費者との交流

読者の皆さんへのメッセージ

地産地消の推進は、環境を守ることにもつながるほか、地域みんなが元気になる取り組みです。地産地消をきっかけに、都市と農村、消費者と生産者が、お互いに行ったり来たりできる関係にまで発展できることを願っています。